

# 小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。  
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	「横断歩道にある機械ってどうなっているんだろう？」
学年	小学校第1学年
目標	地域にある横断歩道の機械の仕組みを知ったり、仕組みをもとにさらにどうしたらより安全になるかを考えたりすることで、安全な登下校への意識を高める。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	Lego Wedo2.0
環境	児童2人で1台の端末を使用
都道府県	長野県
実施校	長野県伊那市立伊那小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p><b>学習の概要</b></p> <p>1次 学校近くにある横断歩道について考えよう。 2次 考えた仕組みを作ってみよう。 3次 どんなことに役立ちそうか考えよう。</p> <p><b>活動の様子</b></p> <p>1次 学校近くにある横断歩道に疑問を持った子どもたち。「人が通ったらピカピカするのはどうして？」ということについて、考えていきました。そのなかで、「信号がない横断歩道だから、運転手さんに渡りたいっていうことを知らせないといけない。」「右左右見て渡るけど、運転手さんにも気づいてもらえるようにするんじゃないかな。」と考えていきました。</p> <p>2次 1時に考えたことをプログラムしてみるとどんなものが出来上がるかを再現してみるためにLego Wedo2.0と出会いました。その中で、「今渡っています。と、声で伝える。」「わたりますので、止まってください。と書く。」などのアイデアを出し、つくっていった。実際に、センサーが反応し、表示された際には、「やったあ」との声が上がった。</p> <p>3次 今後、どのような生活場面に役立ちそうかを考えていった。</p>
成果と課題	<p>・便利なもの・役立つものとして、ブラックボックス化するのではなく、その仕組みについて考えていくことで、実際に人が通った際に、表示が出た時には、達成感を味わう姿が見られた。</p> <p>・現在すでにあるものを再現するという意味合いが強く出てしまった。活動を通して、新たな発想を生み出していく活動を展開していくことが課題である。</p>

